

第7回奈良ESD連続セミナー

- ◇開催日時 平成28年10月20日(木)19時～
- ◇会場 次世代教員養成センター2号館 多目的ホール
- ◇参加者 新宮(平城小)、三木・山方(都跡小)、大西・池見(飛鳥小)、池見(大宮小)
河野(富雄第三小)、中澤哲(平群北小)、石田(済美小)、蔵前(真美ヶ丘小)
仲・横井・黒木・後藤田・北村・中澤 16名

◇内容

1. 学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策(担当:新宮先生)

カリキュラムマネジメント 単なるPDCAを指しているのではない

新しい時代に求められる資質・能力を育成するため

- ・教科横断的な側面からの教育活動を改善
- ・教育内容の向上
- ・人的・物的資源等の効果的な活用

◇「チームとしての学校」管理職だけでなく、全教職員によるカリキュラムマネジメントの体制づくり

これからの教員に必要な力

- ・カリキュラムマネジメントに必要な力
- ・学習・指導方法を改善していくために必要な力
- ・学習評価の改善に必要な力

◇カリキュラムマネジメントに必要な力とは

- ・教科横断的な視点で教育活動を見直す力
- ・各教科の内容を熟知
- ・教員集団を活かすことができる力



2. 次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ(素案)のポイント(担当:中澤)

◇社会に開かれた教育課程:社会の変化に向き合い、適切に対応していくための資質・能力

(ESDの場合は、社会を変革していくための資質・能力)

◇資質・能力(「何ができるようになるか」の具体は、三つの柱に沿って明確化

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

◇知識重視か思考力重視かという議論に終止符

知識の量や質と思考力の両方が重要 → アクティブ・ラーニングによる学習過程の質的改善

アクティブ・ラーニングの視点:「主体的・対話的で深い学び」

- ①学ぶ意味と自分の人生や社会の在り方を主体的に結び付けていく「主体的な学び」
- ②多様な人との対話や先人の考え方(書物等)で考えを広げる「対話的な学び」
- ③各教科で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて、学習対象と深く関わり、問題を発見・解決したり、自己の考えを形成し表したり、思いを基に構想・創造したりする「深い学び」

「主体的・対話的で深い学び」を具体的に

- 導入の工夫：切実感・強い関心のある問いをつくることで、アクティブ・ラーニングを起動（クリティカル・シンキング）
- 対話的な学びで考えを広げる（多角的思考・システムズシンキング、コミュニケーション力）
- 個別の文脈的知識の組み合わせから汎用性のある知識（様々に適用できる概念）の形成

【協議】

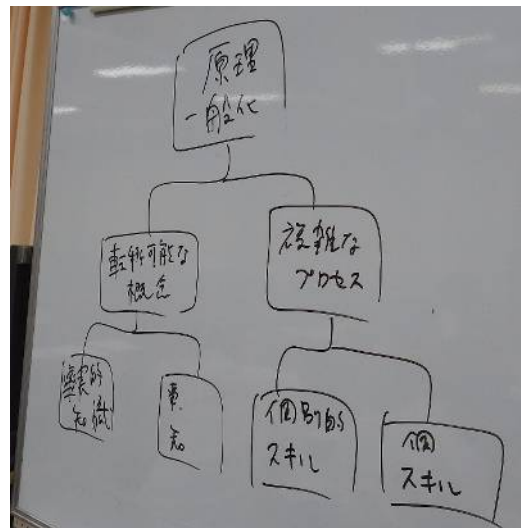
(山方)：知識・技能というのは「見方・考え方」であろう。個別の知識・技能にとどまらず、それを組み合わせた汎用性のある知識・技能の獲得を考えているので、汎用性のある知識・技能はキー概念であり、「見方・考え方」と言い換えることが可能だ。

事実的な知識と個別的スキル等による転移可能な概念の形成、複雑なプロセス、及びそれによる原理・一般化については、右図の通り。

(中澤)：転移可能な概念とは、汎用性のある概念のことだから、汎用性のある概念がいくつか集まって、統合することで「原理・一般化」が可能になるのは理解できるが、複雑なプロセスというのがよくわからない。

(北村)：普通は一体的に学ぶのであるから、知識とスキルを別々に考えるのは、無理があるのでは。

(中澤)：概念を見直し、更新するためにはスキルも重要。



この図に関しては、引き続き、山方先生に研究をお願いする。

3. 次期学習指導要領の評価の3つの観点とESDについて

- ・資質・能力の3つの柱に沿って3観点到整理
- ・感性や思いやり等は評価の対象外

(1) ESDの視点

	対象	要素について	作用について	傾向について
実態概念	自然環境・社会環境	多様性	相互性	循環性
規範概念	人や集団の行動や意思決定	公平性	連携性	責任性

(2) ESDで育てる能力

- ・クリティカル・シンキング（批判的思考力・代替案の思考力）
- ・システムズ・シンキング（多面的・総合的思考力）
- ・データや情報を分析し、未来を考える力（長期的思考力）
- ・コミュニケーション力
- ・協働的行動力（ESDの目的は行動の変革であるので、新しく加えた）

(3) ESD で育てる価値観

- ・公平性：世代間・世代内の公正、人権・文化の尊重、環境配慮、多様性の尊重
- ・連携性：協力する態度、つながりの尊重、非排他性、機会均等
- ・責任性：進んで参加する態度、リーダーシップの向上

(4) 次期学習指導要領の評価の3つの観点と ESD の (1) (2) (3) の関わりを考える

- ①知識技能
- ②思考・判断・表現
- ③主体的に学習に取り組む態度

- 「各教科で習得した知識や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせて (p.2)」から、「知識・技能」は「汎用性のある知識・技能」であるにとらえると、ESD の視点と対応
- 「思考・判断・表現」は ESD で育てる能力に対応
- 「主体的に学習に取り組む態度」の学習を社会と置き換えると、ESD で育てる価値観に対応

【協議】

(後藤田・三木)：知識・技能に実態概念が当てはまるのは理解できるが、規範概念はどうか？

(中澤)：例えば、棚田嘉十郎に焦点を当てた授業を行う場合、棚田嘉十郎の行ったことを ESD として判断する場合に、規範概念（責任性）などを切り口として活用する。子どもたちに、自己の生き方と比較させて責任性について考えさせる、ことがここに当てはまる。

(三木)：知識・技能で規範概念が使われ、主体的に取り組む態度でも規範概念が出てくる。そこが引っかかる。

※ESD で育てる価値観については、引き続き研究する。

知識・技能：ESD の視点

思考・判断・表現：ESD で育てたい能力

主体的に学習に取り組む態度：ESD で育てたい価値観 とすることで共通理解できた。

4. ESD の学習指導案の様式について

(1) 単元名

(2) 単元の目標

(各教科の目標と ESD の目標をどうするか)

(3) 単元について

- ・教材観（取り上げる教材のよさ・価値）
- ・児童生徒観（本単元に関する事前の評価・アンケート結果）
- ・指導観（評価観を含む）（指導上の工夫・方針）

(4) 評価基準

(5) 単元展開の概要（全○時間）

(6) 本時について

①本時の目標



②本時の評価基準

③本時の展開

【協議】

教科の指導案（総合以外）の場合

①目標に ESD の目標も書くのか

②評価基準に ESD の基準も書くのか



(三木)：目標に2つ、評価基準に2つというのは、わかりにくくなるだけだ。

(石田)：実際に書いてみて、ESD の3つを評価基準や目標に書き込むのは困難だった。

評価基準に書くなら、目標も書かないといけない。

(中澤)：目標になくても単元についてで書くのであるから、ESD の評価基準があってもよいのでは。もし、書かないのであれば、単元についてでふれていても、ESD の指導案であることがわからない。以前は、明示的にするために「ESD の視点」というのを、別に書いていた。

(山方)：ESD の視点というのを、単元についての中の4つ目に書いてはどうか。

(大西)：飛鳥小学校の指導案では、単元についてを教材観・児童観・指導観・ESD の視点の4つに分けて書いている。

※ESD の目標や評価基準の欄は作成せず、「単元について」の中に4つ目の項目として ESD の視点を設ける。そのさい、教材観や指導観に記載したと若干の重なりが生じても仕方がない。ということ
を共有した。

※この指導案の様式で ESD の指導案を作成してください。

次回は、11月29日（火）19時～です。

山方先生と池見先生（飛鳥小）が指導案を持ってきてくれますので、検討します。また、北村先生を通じて、中村先生・今井先生にも指導案の提案を依頼します。

評価基準は3観点で

知識技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

単元展開の概要（全○時間）

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・ 備考
1.		
2.		